第33回 神奈川県美術展

1997

第33回
神奈川県美術展

1期展／工芸、書、写真　平成9年9月2日(火)～14日(日)

2期展／平面・立体　　　平成9年9月16日(火)～28日(日)

会場：神奈川県民ホール ギャラリー

主　催／神奈川県民ホール［(財)神奈川芸術文化財団］
神奈川県
神奈川県美術展委員会

（厚木巡回展のみ）
厚木市
厚木市教育委員会
厚木市文化会館事業協会

厚木巡回展／平成9年10月22日(水)～10月29日(水)

会場：厚木市文化会館 展示室

1期展

＊工芸

＊書

＊写真

受賞作品目録

《工芸》

大賞	村田　則子	東京都大田区	「レクイエム」
準大賞	福島　寛子	横浜市	「呉須絵矢絣模様大鉢」
特選	永井ひとみ	横浜市	「a plant—停止」
特選	中村　美津	鎌倉市	「追　憶」
美術奨学会賞	萱生　賀代	横浜市	「　翔　」
美術奨学会賞	川合　都美	横浜市	「黎　明」
美術奨学会賞	堀口　成依	奈良県北葛城郡	「キー.ダイダイ.アカ.アオ」
美術奨学会賞	赤岡　正行	藤野町	「集合体」

《書》

大賞	島田　幸舟	横浜市	「白　鳥」
準大賞	佐野　圭雪	平塚市	「良寛詩(崑崙山の山かげに)」
特選	座間　幽洋	横須賀市	「祖詠詩(江南旅情)」
特選	白鹿　光秋	平塚市	「　春　」
美術奨学会賞	服部　青昌	横浜市	「古今和歌集より」
美術奨学会賞	松本　靖美	葉山町	「三宅惟子のうた」
美術奨学会賞	尾崎　静鳳	横浜市	「袁枚詩」
美術奨学会賞	相部　小香	海老名市	「明日川」
県議会議長賞	八十川悦子	横浜市	「み空ゆく月読をとこよひ去らず目には見れども…(万葉集12首)」

《写真》

大賞	渡部　満	厚木市	「1.8 朝」(3枚組)
準大賞	吉田 陽子	横浜市	「エチオピアの人」(3枚組)
特選	田口　清	横須賀市	「夏も終わりぬ」(3枚組)
特選	大藤 能憲	東京都世田谷区	「　妻　」(2枚組)
美術奨学会賞	山口 道子	川崎市	「霧の幻想」(2枚組)
美術奨学会賞	大関 通夫	横浜市	「軌　跡」(3枚組)
美術奨学会賞	西島 公宣	横浜市	「雨を待つ兄弟」(3枚組)
美術奨学会賞	林　京子	伊勢原市	「午後の予感」(3枚組)

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

《工芸》

幸元 益夫	「焼締花器」
鈴木 淑子	「土の女」
林 亘	「瀑　布」
神津 幸治	「落椅子」
相馬 恒雄	「透彫壷」
杉山 紘美	「　凪　」
原 恒夫	「宇宙パート29」
桑原 平治	「飛鉋象嵌鉢」
今野 涼	「LARVA OF CICADA」
菅原 準二	「ばら文平鉢」
稲葉里き江	「景Ⅱ」
近野 久子	「　和　」
齋藤 龍也	「白化粧扁壷」
黒川 富子	「箱船―時の帆影―」
〃	「海音調」
足立 治男	「樹　海」
髙橋 悟	「焼きしめ皿3枚セット」
石川 清	「飾り大皿」
〃	「オブジェ逆転花器」
小林 輝道	「春の宵」
田島 節子	「すくい織り名古屋帯〈糸あそび〉」
島 幸子	「早暁〈夏〉Ⅱ」
久光 宣子	「里の春」
天野 孝子	「晩秋」
今林三恵子	「種たちのスペース」
前沢 秀知	「斑釉平鉢」
芳野 勝巳	「金彩スプライト」
堀野眞砂子	「ゆれる」
飯島 克己	「香合"夏"」
釣 敬子	「被ガラス切子花器」
小川 朋子	「作品A」
森廣 信枝	「風の記憶」
長崎 悟	「灰釉広口甕」
石綿 明子	「布目八手文陶筥」
石黒 陽子	「碧い風」
中村 良哉	「乾漆溜塗引目鉢〈歓声〉」
北垣 幾子	「桜　山」
髙部 康子	「紫陽花」
木村 隆男	「備前大壷」
山本美世子	「想い」
山口 浩二	「宙吹二色被大鉢」
青井 良子	「葉鶏頭」
五味 彦一	「焼締窯変線文器」
鈴木 亘	「練上壷」
宮田 麻緒	「YELLOW 4 seasons」
〃	「赤と黒」
矢吹 藤子	「あおい」
野口 和子	「　挑　」
山田 圭子	「干し大根」
佐藤雅一郎	「九州対馬若田硯　さざ波」
杉山 秀樹	「象嵌広口花器」
〃	「象嵌大皿」
原 美代	「　凧　」
木下 貞雄	「練上五稜花器」
鈴木恵津子	「古　都」
山口 美子	「追　憶」

栗原 宏明	「格　闘」
佐藤 嘉人	「灰釉栓カバー」
青柳ゆき子	「文箱〈ムべ〉」
森崎芙美子	「水　蓮」
南部 泰子	「銀蒔絵飾箱」
汐谷美樹子	「偽らざる偽り」
山口 雅彦	「赤志の変形俎板鉢」
三村 佐季	「秋　映」
川本ちゑ子	「恋する時」
佐々木虎男	「　壷　」
保田 繁夫	「百合文大壷」
佐野 伸司	「白文象がん扁壺〈誕生〉」
佐川 良子	「山のかたち」
原 茂一	「伊ら保釉壺」
栗原 恒子	「草原の詩〈うた〉」
佐藤 智子	「Origin」
成澤のぶ子	「　花　」
鈴木 陽子	「灰釉いっちん盛器」
鈴木 紀子	「備前波文花入」
米澤昌一郎	「黒釉青白斑文壷」
金子 清	「鉄釉白掛刻線文皿」
木村 桜子	「憩　う」
山本 弘子	「トキヨトマレ　射玉〈ぬばたま〉」
花形 澄子	「Kids」
渡辺由紀子	「はじまり」
〃	「深　閑」
増田かよ子	「　沙　」
根岸 律子	「夏の雨」
渡辺 真理	「流　砂」
内田 正男	「星の誕生」
小川 和孝	「清潤な生活〈先人の知恵〉」
宮川香代子	「宙―ブラックホール」
浜山 春香	「音　色」
宮森 茂男	「備前縄文花入」
大丸 洋子	「Preludes No.15」
古根 香	「月帰趨」
加古佐知子	「訪れ〈おとずれ〉」
蓮沼 芳子	「湘南のかずら」
髙橋 順子	「灯籠草」
柴田 近子	「蒼の記憶」
芹沢ひとみ	「海の楽園〈イッカクの気持・サンゴの夢・イソギンチャクのダンス〉」
宮原二三子	「刺し子 はんてん」
中村 知子	「白　日」
佐藤 京子	「　縮　」
斉藤三枝子	「麻布目盛器」
村主 武	「三点高台ペルシャ青磁釉鉢」
大原 乾資	「蒅藍板締染　うみ」
酒井 憲一	「乾漆糸巻壷」
勝田 素子	「寓 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
永吉 香里	「残　象」
長井 直子	「鐘の響き」
重村 郁子	「掻落し菊花文壺」
梅田 千晶	「花の器」
岩井 尚子	「着　物」
〃	「　帯　」
大内 明雄	「緑釉組皿」

中澤　正雄　「生　命」
尾形　政子　「群　青」
岡部　龍子　「道しるべ」
山下　敦子　「花の詩」
田中美智子　「大香炉朱鷺の夢」
佐野　　誠　「蟹文大皿」

《書》

小沢　亯悦　「針　切」
弦間　秀僊　「万葉秀歌」
岩崎　菊畦　「和歌16首」
川手　敬湖　「新古今和歌集の歌10首」
小林　華陽　「五月待つ花橘の香をかげば　昔の人の袖の香ぞする」
大平　綾南　「与謝野晶子歌集より」
齋田　麗華　「ゆく春」
小池　青芳　「偲　草」
西村　節子　「小倉百人一首より」
宮崎　葭瑶　「杜甫詩」
町田　靖穂　「万葉のうた」
吉田　德子　「新古今集より」
土川　浄信　「王安石詩〈北山暮歸示道人〉」
中村　雅枝　「杜審言詩〈蓬莱三殿侍宴奉勅詠終南山〉」
齋藤　知美　「孟浩然〈臨洞庭上張丞相〉」
牧野　幽峰　「王維詩〈過香積寺〉」
中山　玉韻　「唐詩　岑参詩〈登総持閣〉」
大島　幽光　「丁仙芝〈渡揚子江〉」
高橋　芝園　「王維詩〈登弁覚寺〉」
長尾　雪永　「山邊の友」
鈴木　白鷺　「忍ぶ恋」
内藤　慧華　「四季」
井上　慧瑤　「(臨)関戸本古今集」
佐野　恵子　「葛の花」
矢野　龍谷　「晋王右軍蘭亭序」
木多　緑舟　「梅の花」
中川由紀子　「をぐら山」
山本　紅裳　「王維詩二首」

田代　和江	「袁宏道詩」
志村　魯嵓	「鄭巣の詩」
中里　健哉	「杜甫詩」
黒田　杪嵓	「梁紹輝詩」
佐藤　礼子	「母が詠みしうたⅢ」
大江喜幸江	「よしのやま」
村山　ちい	「曼殊院古今集」
大岸　昌子	「和泉式部続集切」
成木　初	「王昌齢詩」
高須賀鳳蘭	「岑參詩」
塩沢　鷲州	「羽　衣」
田川　悦子	「山紫陽花の…和歌三首」
佐藤　青香	「新古今和歌集より」
井上　澄江	「古今和歌集より」
伊勢　青京	「新古今和歌集より」
伊藤　青光	「さくら散る」
村井　純子	「百人一首より」
福谷　青怜	「わたの原」
逸見　月草	「古今集二首」
荒砂　典子	「初　夏」
新井　青谿	「秋日江居寫懐七首」
亀井　桂華	「菜根譚」
荒井　翠扇	「孟浩然五言二句（天邊樹）」
堤　智子	「丸山薫・詩　錨」
林田　紀子	「井上靖の3月より」
中山　政子	「美しき天然」
栃木　郁子	「　昼　」
森田　新菜	「花少女」
松原　隆	「顔」
大木　明子	「宗左近詩　サヨウナラよサヨウナラ」
大木　銀子	「白昼青野にて」
山士家啓子	「月牙泉の澄んだ夕暮」
石塚　晶恵	「平戸寛子・絵画展」
綿貫　吉野	「高田敏子の詩」
小林　千幸	「宿　酔」
指籏　登美	「エミ・ネスクの詩　みずうみ」
髙橋　秀栄	「晩　秋」
安田　達子	「野麦街道」
穂坂美代子	「夕の海」
日守菜穂子	「神仙を聴く」
佐野　幸代	「田中冬二の詩　サングラスの蕪村」
北川　泰	「水野るり子詩　カモメ」
石井　久美	「高野辰之の詩　紅葉」
山本　清子	「尾崎喜八の詩　河口の船着」
池上百々子	「崔華園の詩　萩」
佐藤　淑子	「中原中也の詩　秋」
三井　郁子	「石井藤雄の詩　蜻蛉」
土屋　郁英	「丸山薫詩　帆が歌った」
野田　容子	「夏の思い出」
小泉　恵俊	「白骨温泉」
上村　仙石	「三好達治詩　いまこの庭に」
滝澤　秀石	「近代詩文書 中原中也詩 少年時」
眞鍋　光子	「近代詩文書（自作の句）」
井上　美子	「近代詩文書（柏倉秀子の句）」
和田　紫香	「近代詩文書（小谷弘子の句）」
八木　静香	「いい日旅立ちより」

及川　節子	「山国初夏」
三谷　麗月	「星野富弘詩　ぼたん」
相馬　澄月	「石川啄木の歌」
馬場　虹苑	「北原白秋の詩」
梅田　昌葉	「堀口大学の詩　星を釣る」
上野　春海	「北原白秋のうた」
武居　尚琴	「平井たえの詩」
深川　静燕	「俵万智の詩」
安田　晴生	「夏へのいざなひ」
井上　木鳳	「烟雨村（松平君山）」
饗庭　雅翠	「忘れ草…」
矢口　一溪	「自出白蓮精舎曽」
福島　虹泉	「蘇東坡詩」
兵部　彩泉	「杜甫詩」
植松　龍泉	「張若虚」
廣町　茜泉	「元好問詩」
原岡　紫泉	「蘇東坡詩」
上原　華泉	「高適詩」
辻巻　薗泉	「賦得四月清和　雨乍晴」
谷口　春泉	「陸游詩」
佐藤　柚処	「明詩三首」
平松千恵子	「周啓詩　夏日雑興」
楠　琴処	「西亭春望」
小原　庭処	「韓偓詩　惜花」
安地　蓮処	「白居易詩　折劍頭」
榊原　光処	「孟浩然詩　夏日南亭懐辛大」
小林　廣洲	「夏日南亭懐辛大」
熊澤　艸洲	「寒山詩」
山本　花聲	「唐詩」
高橋　彩秀	「ふるさとの」
柴田　李笙	「李白詩」
長島　正恵	「初夏（和歌六首）」
岡本　蘇心	「山上憶良の歌」
明石　蕙州	「駒とめて…」
浅間　静江	「かな芭蕉文集より」
古谷　史枝	「百人一首より」
池上　好子	「秋」
和田　清泉	「もみぢ」
成田　敏子	「秋」
戸ヶ﨑光子	「おみなえし」
稲葉　竹苑	「春望」
佐藤　俊恵	「めつらしき」
内田　洋子	「さらさらと」
米澤千恵子	「あさ日かげ」
横山　翠扇	「春」
原　幽蘭	「汴岸置酒、贈黄十七黄庭堅詩」
古田　泰子	「雪の夕暮」
庵　華翠	「梅堯臣詩　江鄰幾饌鱠」
田端　蒼秀	「江以達詩」
野頭　荘雲	「泊舟盱眙」
木下　滔泉	「西塞山懐古」
松本　亘正	「良寛詩」
神原　秋翠	「百人一首より」
髙橋　芳聲	「久方の天の香具山～」
茶木　静萌	「孟浩然詩二首」
和田　静月	「白居易詩〈松聲〉」

藤原	星汀	「何景明詩」
長澤	公雅	「王維詩二首」
島田	玲花	「陶淵明詩　飲酒其七」
加藤	晴恭	「劉嗣綰詩」
菅井	穂谷	「方朝詩」
渡辺	有香	「王庭詩」
山田	恵茜	「李商隠詩房中曲」
安部	梅陽	「蘇軾詩」
森山	徑陽	「節切　節臨」
木村	晴雲	「胡宗仁詩」
伊藤	静俊	「杜甫詩二首」
山野	景翠	「登岳陽楼」
横山	蘭葉	「五言律詩　常建詩二首」
木下	静朝	「李白詩　宮中行樂詞」
増木	萌寿	「杜審言詩」
竹内	栖涼	「桐江」
中西	貴照	「栄之問詩」
佐々木	蘭華	「張説詩二首」
小倉	竟葉	「劉禹錫詩」
森	栄泉	「李白詩二首」
渡辺	悟竹	「李白詩〈古朗月行〉」
金子	静勁	「李白詩」
井澤	洋髙	「王維詩　苦熱」
塩崎	晴潮	「江上吟」
菱田	右紫	「李白詩」
松尾	右翠	「良寛詩」
菊島	右雪	「曹操詩」
東山	右徹	「杜甫詩」
石井	右千	「藍仁詩」
長谷川	右扇	「劉基詩」
杉浦	右花	「張九齢詩」
小川	右佳	「岑參詩」
中溝	右曄	「董嬌饒」
奥田	栖芳	「李白詩」
髙橋	青城	「王維詩」
鈴木	青秀	「李白詩」
石井	青珠	「蘇軾詩」
橋本	青玉	「白楽天詩」
橋本	芳雪	「新古今和歌集二首」
貝原	積眞	「白居易詩」
杉森	玉園	「孝経(抄)」
鳥居	節葉	「仿太宗」
青木	湘堂	「言志録　第九十七節」
大場	きよみ	「峯の松風」
神東	榮春	「盧照鄰詩　長安古意」
川添	紅琇	「李白詩　長干行」

《写真》

花崎　宏平	「チャーミングな姉妹」
今福　克保	「夏の記憶」
中島　義範	「晩秋の詩」(2枚組)
望月　勝美	「赤い山」
臼井　孝	「娘への旅立ち(三浦の初春)」(3枚組)
吉田　喜久	「夜明けの海」
富山　幸子	「カミニート(小径)」
髙木　英明	「古都残照(ポルトガル)」
大山千恵子	「激　闘」
藤川　英俊	「ニッコロ・マルチェッロの肖像(モザイク壁画)」
古谷　久夫	「朝　陽」
越川　敏子	「ミャンマーの尼僧院」(4枚組)
川村　利雄	「晩秋の尾瀬ヶ原」(3枚組)
青木　保親	「朝の海」
長谷川雄二	「白い十字架」(2枚組)
西尾　絢子	「トゥワイライト横浜」
和田　幸夫	「花市場えの道」
清野　義雄	「五月の空に」
山田　実	「コラージュ風モンタージュ〈あけぼの〉」(3枚組)
後藤　哲雄	「Love」
鈴木ススム	「優姿白藤」
酒井いちろう	「浜　風」(4枚組)
中間　知利	「秀　峰」
西山　久次	「陽　光」
榎田　守	「うたたねする猫」
堀越　一弘	「バリ島のトップモデル」
内田　清一	「求　愛」
堀内　晶	「風の鼓動」
榊原　俊寿	「波　濤」
村上　吉正	「河口の街」(3枚組)
松葉　良知	「ガッツ」
西村　栄八	「闘　魂」(3枚組)
堀坂　和夫	「攻　防」(3枚組)
中川　英治	「雲寄せる」
本間　英夫	「厳冬北の神々」(3枚組)
福居　寛美	「神　域」(4枚組)
萩谷　芳美	「銀　嶺」
福田　幸子	「〈女瞳私〉動揺」
田中　利文	「初夏の大地」
平井　和穂	「セカンド・アヴェニューにあるカフェ」
鈴木　良	「空　間」

審査経過

《工芸部門》

ほかの部門では減少していたが、工芸は例年と同じ応募点数があった。(194人、251点)。内容も同じようである。一般に創造的な意欲に欠けている。工芸は技術のマスターということが優先する。そのためにオリジナリティのある独創的な表現力が二次的のもののように考えられ易い。工芸はあくまで造形芸術である。新しい“もの”を創るという意志を忘れてはならない。

審査の過程のなかでもその点が重視されていく。各審査員が、はじめに30票ずつの票をもって、入選作品を推せんした。約100点が候補としてあがる。2回目に20数点が追加された。全員が納得したところで、賞候補の作品が同じような投票で繰り返される。結果的に10数点が残り、審査員の討議により、7点にしぼられた。再び多数決の投票がなされ賞の順位がきまる。染織3点、陶芸2点、木工、七宝、人形各1点。金工、漆芸、ガラスなどがなかった。これからに期待したい。

大賞「レクイエム」、村田則子。詩情がこめられた大作だ。流動感のあるデザインがいい。準大賞「呉須絵矢絣模様大鉢」、福島寛子。呉須の発色が美しい。文様に工夫が欲しかった。

特選「a plant—停止」、永井ひとみ。立体的に構成する。新鮮な意欲がみえる。同「追憶」、中村美津。彫刻空間としての造形意識があった。ユニークなフォルムだ。

美術奨学会賞「翔」、萱生賀代。動きのある大胆なフォルムだ。大作をよくまとめていく。同「黎明」、川合都美。豊かな表情をもった人形。配色がいい。同「キー、ダイダイ、アカ、アオ」、堀口成依。4色をそれぞれ基調にしてアレインジする。そのアイディアが成功した。同「集合体」、赤岡正行。群像を思わせる。量塊のある力強さをみせる。

このほか受賞しなかった作品にも力作があった。残念なことだが、またの機会に頑張ってもらいたい。

県内の工芸人口は増加している。レベルもあがった。しかし、若い世代の作家たちの活躍があまり見られない。もっと積極的に参加し、若々しいエネルギーを発散してもらいたい。ここから21世紀のかながわ工芸が独自性をもって生まれることを望む。

柳生不二雄

工芸部門 ●搬入点数251点(194人) ●入選点数126点(120人)

《書部門》

ここ数年出品数の低迷がつづいて憂慮しているのであるが、今回は更に搬入日が繰り上ったことによって、制作期間に準備が不足して出品者間に若干の動揺を与え、それが出品減少の原因の一つになったという声もある。然し審査の段階において観察したところでは、出品層が固定化しないで、新しい出品層の出現が見られ、それ丈、出品傾向が拡大したようにも感じられることは、喜ばしいことであり、次回からの活力がひそんでいると、希望的観測も記しておこう。出品作品傾向についていえば、漢字部門に新しい傾向の作風が見られ、それを出品層の新旧交代の前兆と希望的にとらえたい。かな部門においてはここ数年著しい活況を見せ、しかも細字かな作品に意欲的な作品が多い。反面近代詩文書部門はやや出品層が固定しつつありこの辺で新しい活を入れてほしいところである。

入賞作品について所感を記す。

〈大賞〉島田幸舟氏。かな作品の細字を横展開にして墨色と配置が美しい。

〈準大賞〉佐野圭雪氏。横展開の中字行書体、筆鋒の開閉が自由である。

〈特選〉白鹿光秋氏。タテ作品の隷書体、飄々とした用筆に遊びがある。座間幽洋氏。地味ではあるが柔軟な用筆が楽しい。

〈美術奨学会賞〉松本靖美氏。タテにモダンな用筆がザクリと落ちている。尾崎静鳳氏。無難に穏健にまとめている。タテ行書体作品。相部小香氏。淡墨の渋さが、線質の動きを温かく包んでいる。服部青昌氏。緻密な作風、こうした着実さは貴重。

〈県議会議長賞〉八十川悦子氏。紙面を奏でるように軽やかに進んでいる。虚画が特に美しい。

竹田　悦堂

書部門　●搬入点数254点（254人）●入選点数195点（195人）

《写真部門》

第33回神奈川県美術展の写真部門の審査についてその経過を若干の所感を交えつつ報告したい。

実は、こうした公募展の審査に立ち合うこと自体初体験であったため、次から次と目の前に運ばれてくるそれこそ様々な内容の写真を一体どういった基準で選ぶべきか、当惑するしかなかったのが、正直なところだ。絵画や彫刻で、それが抽象的な表現からなる作品であれば、少なくとも同じ前提に立った作品として審査に臨めるものの、写真となれば、古典的な構図の写真、動物写真、風景写真、あるいは表現主体の写真としてといった具合に、それぞれが目指すところが全く異なる作品であるため、とりわけ新参者にとっては、戸惑いを強く感じたのかも知れない。

個人的には、技術的な水準の高さよりも、一体作者が何を伝えようとしているのか、といった言わば表現それ自体を評価の基準にしたかったのだが、それでは、はなから眼中にないものはどんどん落ちていくといったことになり、少なくともアマチュアの活動を活性化させるといった目的がこうした公募展にある以上、結果として全体の違った傾向のバランスを無視できないといった判断が要求されることを学ばせていただくことになった。

さて、選考の結果から言えば、多少のリップ・サーヴィスがあるとはいえ、水準の高い、しかも今日性のある作品が選ばれたと言えるのではないかと思う。こうした公募展であっても、技術的な側面を評価の基準とするところから次第に、表現内容についても問われる時代を迎えつつあることを物語っているのだろう。ただし、先にも触れたように、すべてがすべて技術よりは表現を最重要視されたものばかりではなく、的確な構図や技術あるいはプリントの質といった側面から選定されたものもあることを言っておかなければならないだろう。

大賞の渡部 満さんの作品「1.8 朝」は、冬の朝、それも日付からわかるように1月の8日という未だ都市が本格的に始動していない、言い換えれば正月というハレの時間を未だ引きずった日をスナップショットで撮影したもの。夜でもなく朝でもなく、正月のめでたさもあるようですでにないような冬の風景を気負いなく、自然な眼差しで捉えているところに多くの共感を得たものと思われる。ある意味では、公募展の大賞をこのような日常生活の一こまを題材とした作品が飾ったことは意義深いと言って良いだろう。

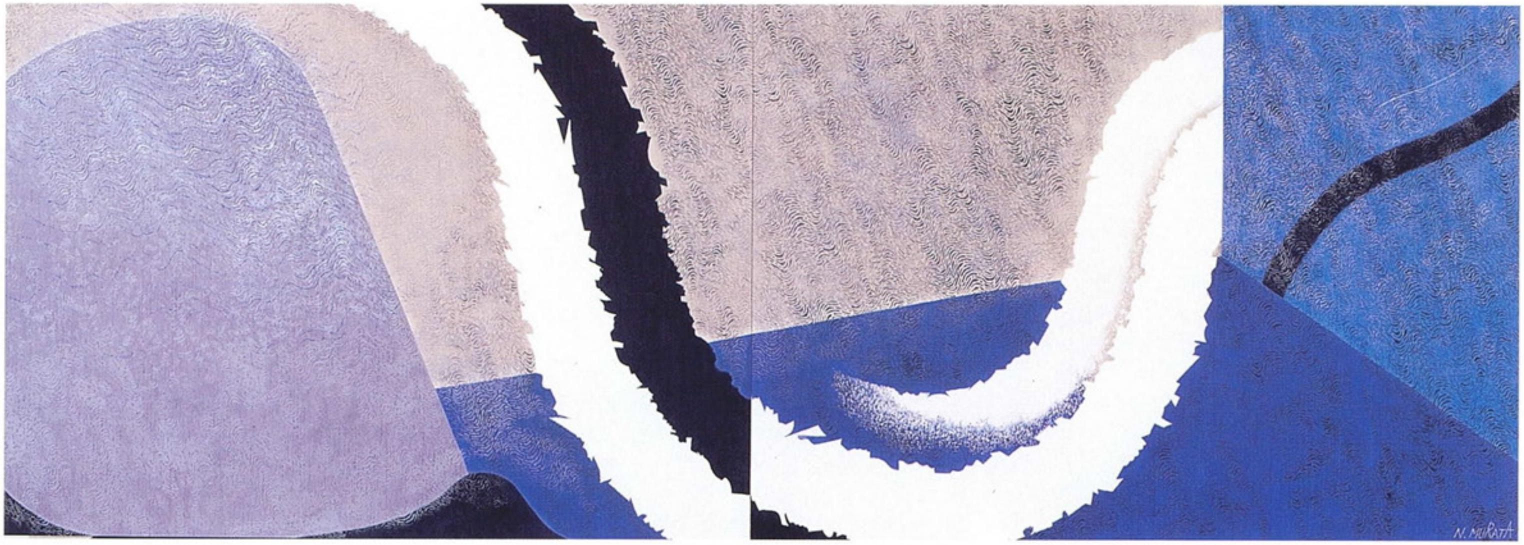
準大賞は、吉田陽子さんの「エチオピアの人」。しっかりと人物を捉え、撮り手との信頼関係がよく理解出来る作品となっている。こうした異文化の人々を題材とするのは、写真における決まり文句となって久しいと思われるが、時代とともにこうした異文化との風景そのものの意味が変容しつつあることもまた確かなことだろう。今後、そうした問題意識も含めて制作を展開していくこともまた肝要かと思う。

特選は、2名、田口清さんの「夏も終わりぬ」、大藤能憲さんの「妻」。田口さんの作品は、何と言っても、フィクションとノンフィクションの境界を無効にさせようとする意志が明快で、見るものを心地よく混乱させるところに妙味がある。大藤さんは、いわゆるヌード写真ということになるのだが、これもまた構図に自由さを感じさせることで、ヌード写真というよりは、広い意味での人物像に昇華されている点にユニークさがある。

美術奨学会賞は、4名。山口道子さんの「霧の幻想」、大関通夫さんの「軌跡」、西島公宣さんの「雨を待つ兄弟」、林京子さんの「午後の予感」。それぞれに写真の守備範囲の広さを改めて感じさせる。とりわけ林さんの「午後の予感」は、日常のなかの異様さを幾つかのショットの組み合わせの中でさりげなく表現しており、今後の展開が期待される。

天野　太郎

写真部門 ●搬入点数148点（75人）●入選点数88点（49人）

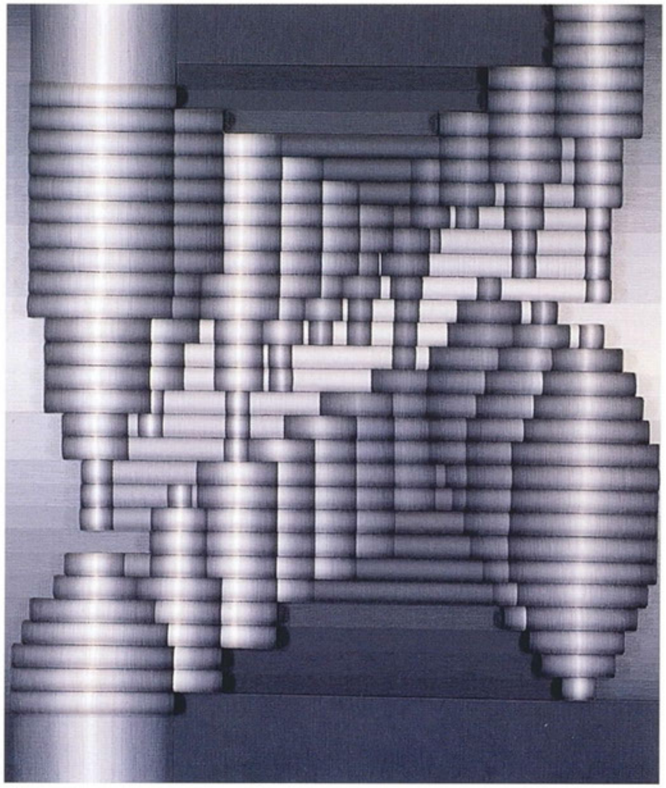


【大　賞】工芸　「レクイエム」　村田　則子

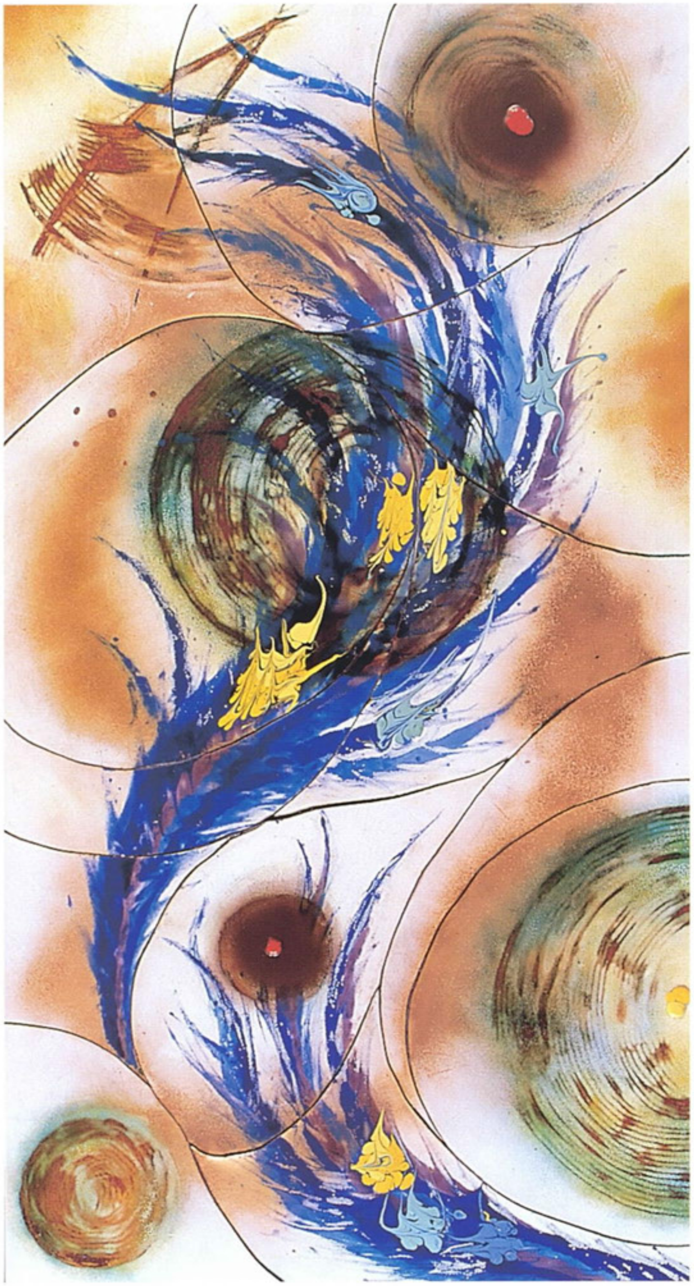
略歴　1964—多摩美術大学絵画科 卒業
1984—BAVA染色作品展（'86、'88、'90）
1985—神奈川県美術展 県議会議長賞
同　　入選（'85～'88）
1987—日本現代工芸美術展 入選（～'97）
1989—染色作品 4人展
1990—日展 初入選
1992—シルク染色作品展
1993—<OPPORTUNITY>染色作品展
1994—日展 入選
国際文化祭 みえ'94美術展 秀作
1996—「染と木の三人展」パルコール嬬恋リゾートホテル
日展 入選
現 在　現代工芸美術家協会 会友
神静会 会員

【準大賞】工芸　「呉須絵矢絣模様大鉢」　福島　寛子

【特　選】工芸　「追　憶」　中村　美津



【特　選】工芸　「a plant—停止」　永井　ひとみ

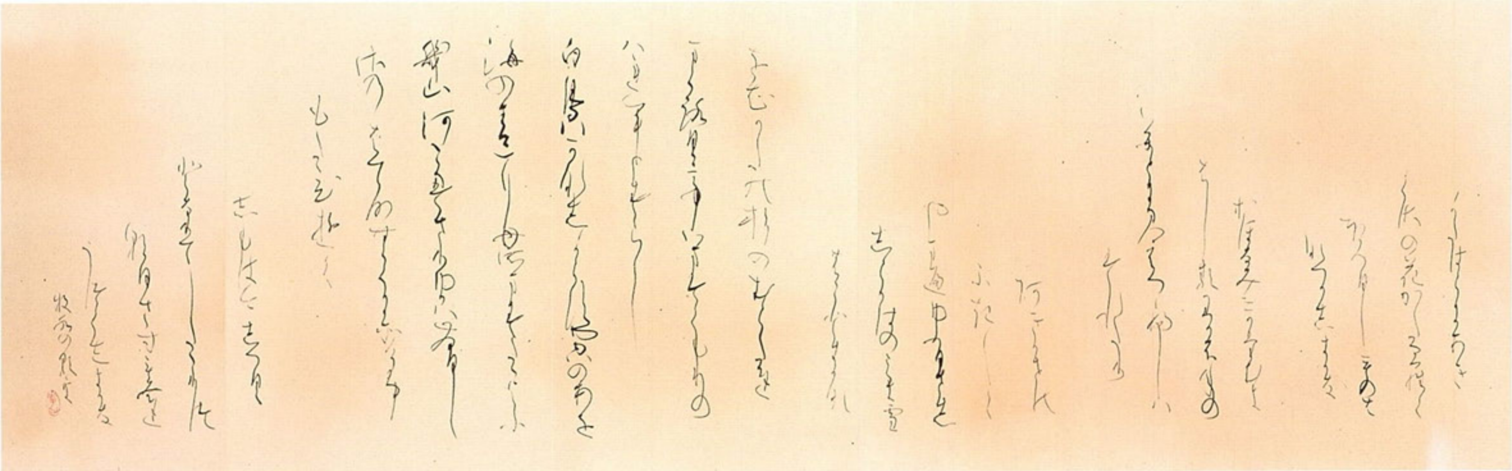


【美術奨学会賞】工芸　「　翔　」　萱生　賀代

【美術奨学会賞】工芸　「黎　明」　川合　都美

【美術奨学会賞】工芸　「集合体」　赤岡　正行

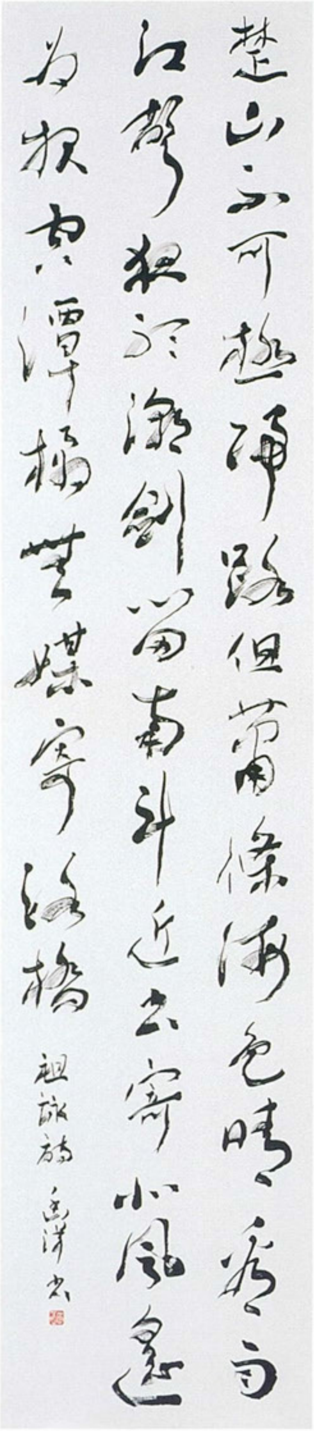
【美術奨学会賞】工芸　「キー.ダイダイ.アカ.アオ」　堀口　成依



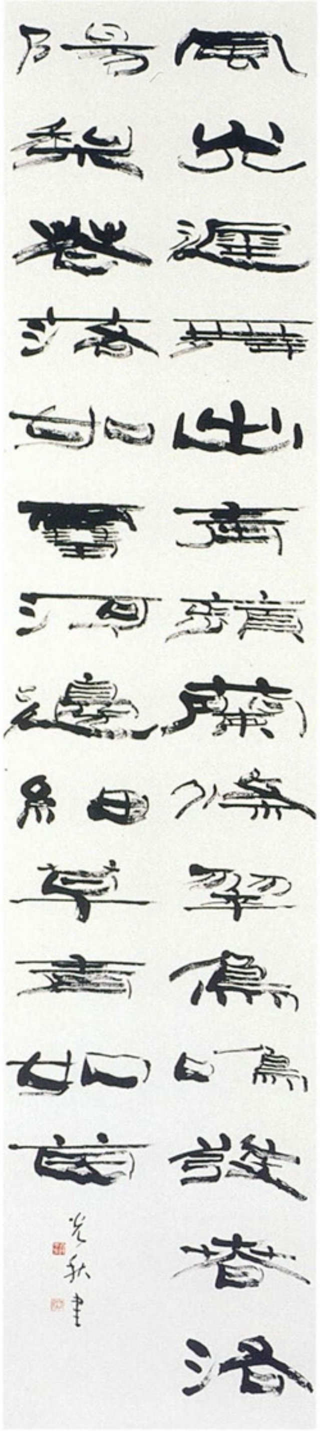
【大　賞】書「白　鳥」　島田　幸舟

略歴　1936—広島県生まれ
1970より 故桑田笹舟、桑田三舟に師事
1988—読売書法展 特選受賞
日展 入選
1991—謙慎書展 特選謙慎賞受賞
1996—第31回神奈川県美術展 美術奨学会賞受賞
現 在　読売書法会 評議員
謙慎書道会 理事
書道笹波会 総務

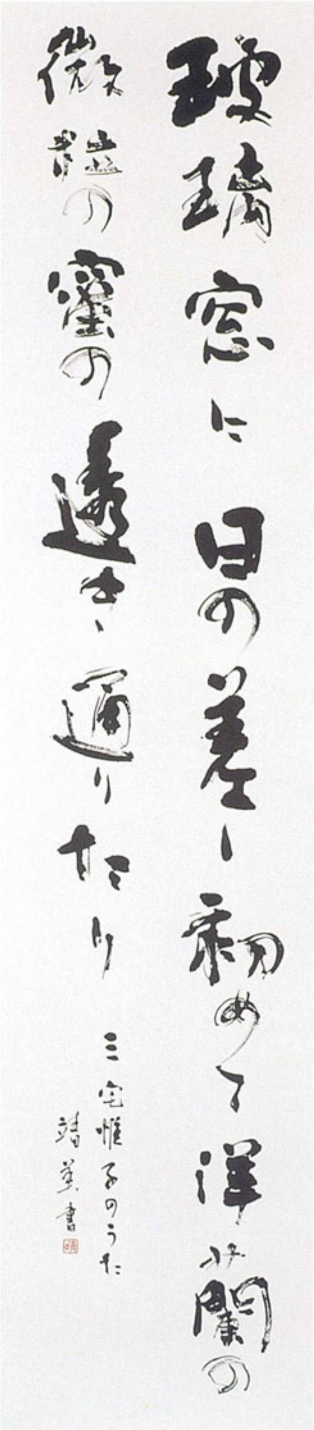
【準大賞】書　「良寛詩（崑崙山の山かげに）」　佐野　圭雪



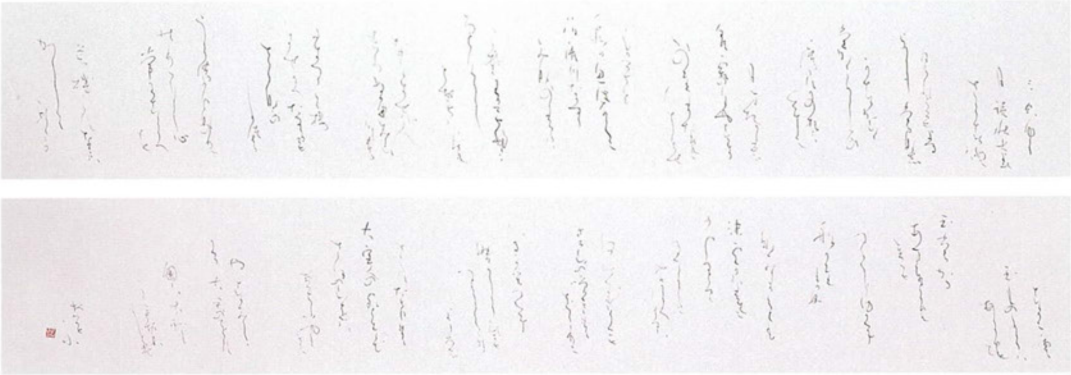
【特　選】書　「祖詠詩(江南旅情)」　座間　幽洋



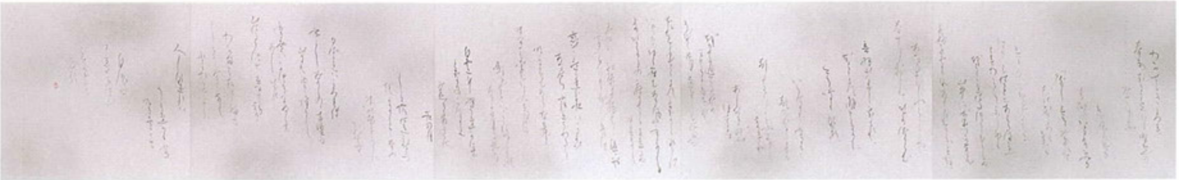
【特　選】書　「春」　白鹿　光秋



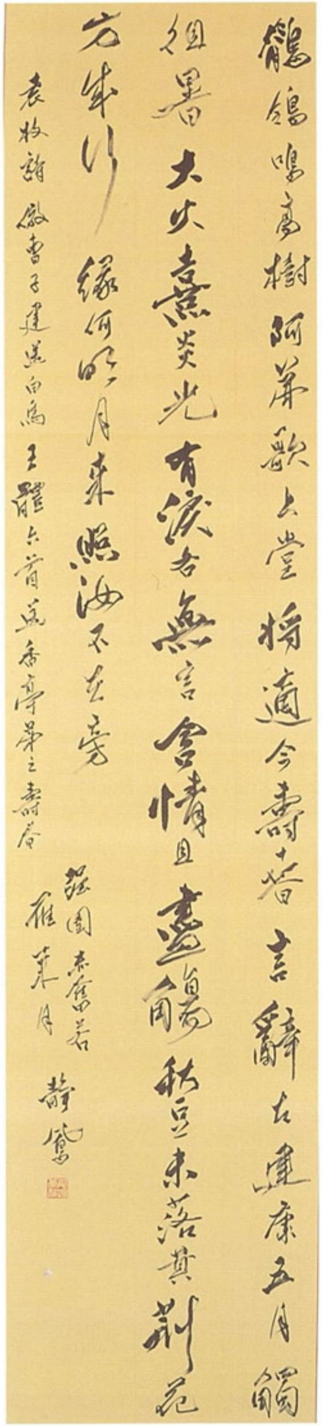
【美術奨学会賞】書　「三宅惟子のうた」　松本　靖美



【県議会議長賞】書　「み空ゆく月読をとこよひ去らず目には見れども…（万葉集12首）」　八十川　悦子

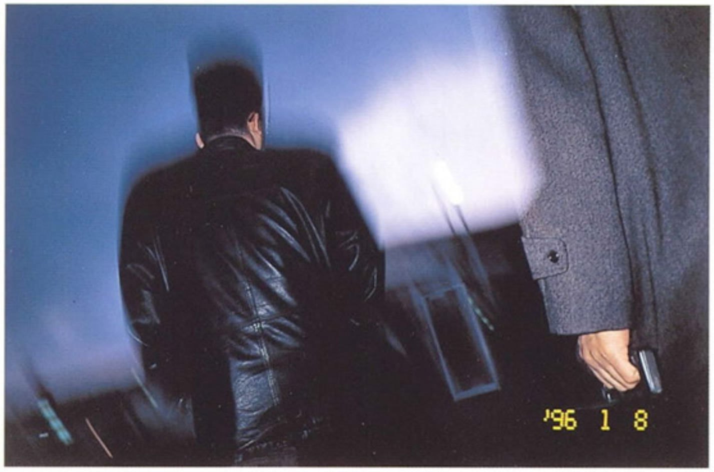


【美術奨学会賞】書　「古今和歌集より」　服部　青昌



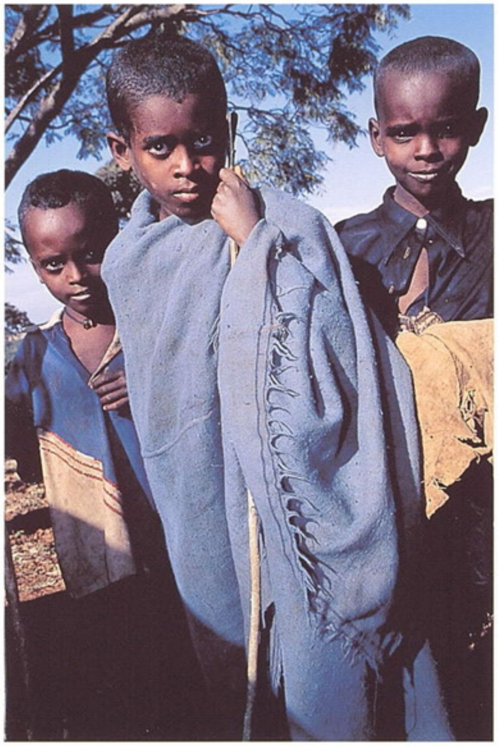
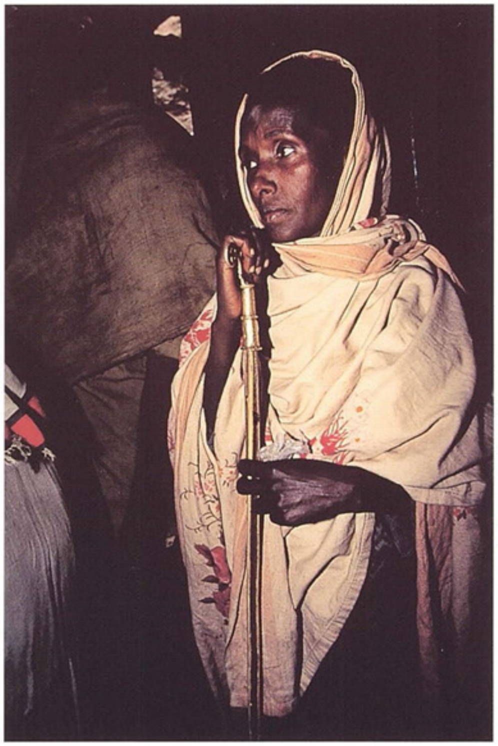
【美術奨学会賞】書　「袁枚詩」　尾崎　静鳳

【美術奨学会賞】書　「明日川」　相部　小香



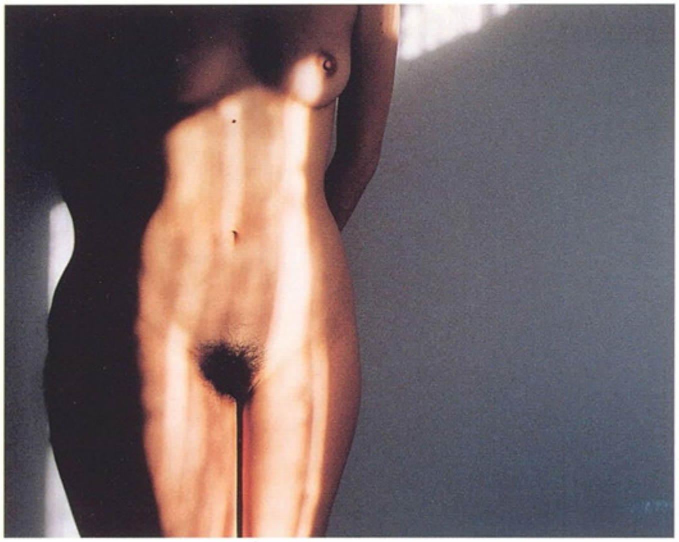
【大　賞】写真「1.8 朝」渡部　満

略歴　1938— 東京深川生まれ
現代写真研究所 卒業
神報連理事
竹内フォトセミナー
林文フォトサークル所属

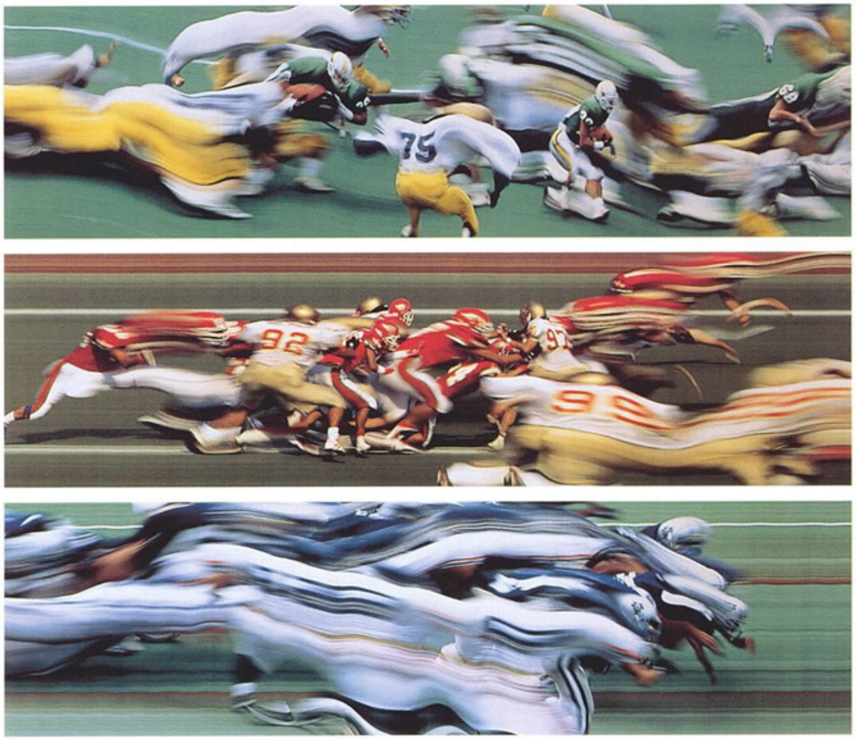



【準大賞】写真　「エチオピアの人」　吉田　陽子

【特　選】写真　「夏も終わりぬ」　田口　　清



【特　選】写真　「　妻　」　大藤　能憲



【美術奨学会賞】写真　「軌　跡」　大関　通夫

【美術奨学会賞】写真　「霧の幻想」　山口　道子

【美術奨学会賞】写真　「雨を待つ兄弟」　西島　公宣

【美術奨学会賞】写真　「午後の予感」　林　京子

2期展

*平面・立体

受賞作品目録

《平面・立体》

大　　　　　賞	剱持　啓子	横浜市	立体	「SANAGI—予兆」
準　大　賞	瀬尾きみ子	横浜市	平面	「時間・移行—9707—H」
準　大　賞	相沢　久徳	横浜市	立体	「時の背景」
特　　　　　選	高橋さやか	東京都	平面	「桃老島」
特　　　　　選	小松　謙一	藤沢市	平面	「みずのかげ」
特　　　　　選	久世　和寿	相模原市	立体	「砂が人間に目ざめさせる対抗的力動性の心象、または世界の終わり」
特　　　　　選	高梨　裕理	横浜市	立体	「あふれ出た水」
県立近代美術館賞	藤井　清子	横浜市	平面	「紫　亀」
美術奨学会賞	大矢　雅章	座間市	平面	「白華の宿」
はまぎん財団賞	たべ・けんぞう	横浜市	立体	「REBIRTH FIELD」

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。
※はまぎん財団賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的としてはまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。

入選作品目録

《平面》

井上　征彦	「希　望」
松本　由紀	「空の水域・2」
土屋　雅敬	「あとかた—内発」
松澤　五男	「回流」
武谷　大介	「HIGH#1」
倉島　敏子	「一週の私風景No.2」
下澤　睦美	「Relax—Gate」
伊藤　香代	「TRACES—Ⅱ」
廣野　正	「化石追想(Ⅳ)」
市川　敏夫	「09—0797」
小玉　政美	「必然の流れの中で(Ⅰ)」
服部　泰一	「スイッチバック」
横山　将二	「SCRIBBLING—33」
生駒　幸子	「一隅Ⅰ」
臼井恵之輔	「FU97—7」
原田　智恵	「地の音Ⅱ」
中村　啓子	「或る瞬間(Ⅱ)」
大野つるね	「歩くシリーズ11」
山田　勝広	「“わ”をつくる人々」
芝崎　峯子	「旅からのメール」
後藤　公一	「Frontal・97—Ⅱ」
平田　清隆	「無題(97㊋06)」
土田　幸雄	「水無月」
藤村　弘子	「RUINⅡ」
伊藤　彰規	「LandⅢ」
品川　成明	「COPPER　WORKS・1」
谷川　悦子	「幻影Ⅰ」
櫻井　律子	「　流　」
加藤ひろみ	「第二の時刻」
沼田　ゆみ	「Live　in　Piaa」
藤田　真理	「パンタ　レイ’97—(B)」
中山　智介	「天使のいる部屋」
田鍋　愛希	「月照ラス終リト始マリ」
竹山　晶	「赤い部屋」
藤崎　淳子	「日常の中Ⅰ」
広瀬　美帆	「昼下がり」
山本　佳永	「うつろい」
芳永　彩夏	「明日へつづく」
沢田　滋野	「風化祭Ⅱ」
石村　実	「風／マティスに捧ぐ」
髙浦とみ子	「遠ざかるもの」
岸上嘉世子	「悲の山Ⅱ」
松下さやか	「RefrainⅡ」
長谷川　単	「銀　杏」
佐々木雄子	「片隅Ⅱ」
伊藤　貴祥	「水の記憶」
加藤　敏夫	「輪　廻」
大塚とみ子	「カオス表現Ⅰ」
川城　夏未	「Balance　1997」
田鴎　佳子	「花嫁のおとし物」
藤沢　徳子	「scape・・・1」
市村　順子	「待春暮色」
大橋　幹	「KONSEKI」
角田たけ子	「’97,7　作品1」
澤岡　泰子	「過去への存在の確認—2」
井伊　泰子	「滋養—液体」

川崎千恵子	「NET—1997—8(緑黄)」
山崎 愛	「地Ⅰ・地Ⅱ」
谷地森真理子	「私の中の鳥たちよ」
嶋田 千夏	「 動 」
武田 律子	「〈旋〉作品11」
関 迪子	「コンポジションⅡ」
伊東 玲子	「MOTHER'S WOMB 3」
佐藤 靖子	「気持Ⅰ」
清野 耕一	「Evolution(進化)97—7b」
丸山あつし	「Barcode 003」
加藤 晶	「birth」
菅沼 稔	「Paraphrase・26」
藤井 信孝	「Colour separate IndependenceⅠ」
宇野 淳也	「彼 方」
田辺いづみ	「FLOWERⅠ」
田中 勇	「となり」
右近多恵子	「げっこうよくⅢ」
佐藤 潔	「都市へ・素描」
大野今日子	「 翠 」
渡辺 猛	「あたしは女・・・うつろい1」
李 璞	「 翔 」
大工 公司	「Boctok—18」
犬飼加寿美	「午前三時四十五分」
久保 敬子	「ソカロの果物売り」
石渡 洋子	「見果てぬ夢」
川北美世子	「 想 」
坪井 隆行	「mildew」
早川 和更	「派生(3)」
永田 弐亮	「Cover 97—4」
浜田 澄子	「いのちの内側に入る」
堂免 修	「生成 A」
宮崎 文子	「Blue News Paper」
小川 了子	「重いと思う?」
山下 英	「けされた顔ー1」
加藤 進	「Ⅰ嬢立像」
西国 学	「飛び方」
栗林 菊枝	「輪舞No.2」
堀岡 正子	「樹の譜(Ⅰ)」
青木 祐輔	「flux of a momentⅡ」

《立体》

藤井浩一朗	「循環源象—ガスの大地—」
小宮彌栄子	「SIGHT」
笹井　弘	「自然に依る」
結城　勉	「水の記憶」
倉橋元治	「The Middle East」
谷澤真希	「chaque pensée」
阿部佳明	「Air drop system」
長島秀行	「ひかりの国の水」
辻　眞由美	「水平線」
生越麻紀子	「飼い犬」
諸熊仁志	「うきわをもって」
水島　茂	「雲井の風」
田中太賀志	「2つのブロッコリー」

審査経過

《平面・立体部門》

前回から、この公募展では平面と立体とを同一部門として審査するという方法を取っている。しかし入選作の選定の段階では、この二つを分けて審査しており、数のバランスも配慮されているから、ジャンルとしての垣根が取り払われてしまったわけではない。総合的な判断がなされるのは、受賞作の決定に当たってである。これがベストの方法であるか否かについては議論があるかもしれないが、多様化しつつも、絵画・彫刻の規範が本質的な部分では細分されている現代美術の状況を踏まえての、一つの現実的な対応策ではあるとは思われる。

さて今回の応募点数は平面474点、立体51点、入選点数は平面100点、立体18点であった。以下、各受賞作について短くコメントしておく。

大賞の劔持啓子は錆びた鉄と光を浸透させる半透明のパラフィンとを組み合わせた水平状の作品で昨年も特選を受賞していたが、今回の「SANAGI一予兆」は同じ方法によりながら垂直状の有機的な形態を試みている。彼女独特の素材感覚とその不思議なバイオモーフィズムとの結び付きが注目された。

準大賞の瀬尾きみ子の作品は暗い色面を、内側からの光を宿した地の上に浮かばせたもので、静かなリリシズムと共にどこか不穏な感触をもはらんでいる。絵画空間の生成の力学を深く捉えた、優れた仕事である。やはり準大賞の相沢久徳は階段状と舟状の二つのマッシブな石を対置することによって、プリミティヴな力とシンボリックな意味を秘めた物語とを同居させている作品で、あたかも古代の遺跡からの発掘品のように見る者の想像力を「時の背景」へと誘っている。

特選の高橋さやか。時代も国籍も支離滅裂のアナーキーな光景を、芳醇な味わいの画面に仕立て上げて見せる、卓越した描写力に惹かれた。小松謙一。混沌と静謐とが一体化した光景を描きうる、繊細な詩的感受性に恵まれた画家である。久世和寿。全面を砂で覆ったレリーフ作品だが、その風化の感覚を漂わすマチエールには、時間への、また人の営みへの作者の思索の深さが感じられた。高梨裕理。自然木のアッサンブラージュだが、野性味のあるダイナミックな造形力が面白い。

県立近代美術館賞の藤井清子。ディテールはエレガントだが、同時に野太いユーモアを感じさせもするユニークな銅版画である。

美術奨学会賞の大矢雅章も銅版画の作品。その奇妙な存在感のある抽象的な形態に、どこか擬人的な感覚が潜んでいるのが興味深い。

はまぎん財団賞のたべ・けんぞう。独自のジャンクアートの制作を続けている作家だが、今回はその中でも最大の作品の一つ。その乱脈な構成は、物質文明への批評であると共に、また都市の時代の新たな美学の表明でもあると言えるだろう。

建畠　晢

今回の平面・立体部門は、応募作総数、応募者数とも前回よりもやや減少した。前回以来の機構改革が、一般には魅力的にはみえなかったのかと心配している。そのかわり、応募作の水準は例年通り他の県展などよりずっと高く、入選作をしぼるのにかなり蛮勇をふるわざるをえなかった。

入選作から授賞候補作を選んだ上で、各選考委員が5票ずつ自己の推薦する作品に投じた。その集票結果を尊重しながら話しあいで、最高得票作から劔持啓子の立体作品《SANAGI一予兆》が大賞、瀬尾きみ子の平面作品《時間・移行一9707一H》と相沢久徳の立体作品《時の背景》が準大賞に異議なくきまった。劔持は錆びた鉄板を敷きならべた上に、生きものと巨大な花瓶が合体したような形態をおき、造形の面妖なおもしろさと意外にもパラフィン張りの布を素材とする技法のユニークさが評価された。瀬尾は簡潔な色面抽象で広大な空間、それ以上に題名通り時間の推移をみごとに表現している。選考過程では作者名も性別も知らなかったが、きまってみると大賞、準大賞の一人とも女性で、これも近年の女性作家の受賞者輩出からみて当然だろう。もう一人の準大賞受賞者相沢は、一角に段を刻んだ不定形の塔状と手洗鉢状の石彫を組みあわせ、モニュメンタルでありながら状況を暗示するインスタレーション性にも欠けていない。

特選4人のうち、高橋さやか《桃老島》はこういう地方公募展には少数ながらかならずみられるメールヘン調に、辛辣な諷刺性を加えて緊密に描きあげている。小松謙一《みずのかげ》は木の枝のさしかかる水面を水墨中心の色調・筆致で丹念にとらえながら、流動する空間を現出する力量を示した。日本画の応募作は注意してみたつもりだが、受賞作はこの1点だけだった。久世和寿《砂が人間に目ざめさせる対抗的力動性の心象、または世界の終り》は、砂と板で無数の小箱をつみあげた壁のようなものをつくり、不安定感と終末感をよびおこす。高梨裕理《あふれ出た水》は木彫で奔放な水の勢いをかたどる、みごとな放れわざである。

藤井清子《紫亀》は、銅版画の表現力を評価して県立近代美術館賞に指定された。大矢雅章の《白華の宿》も同様に銅版だが、黒いかたまりを画面いっぱいにひろげ、その頂上に木立を記号状にならべた表現の斬新さが、美術奨学会賞の授賞理由である。たべ・けんぞう《REBIRTH FIELD》は、床においた低い金属の箱のなかのガラクタ然とした機械部品の組みあわせで、複雑な動きと音をかもしだす仕掛けから、一目でそれと分かる作者が何度も受賞しているので特選以上は見送られたが、従来の作風を集大成したような仕事ではまぎん財団賞となった。

針生一郎

平面・立体部門　●搬入点数525点（319人）●入選点数118点（118人）

＜内訳＞平面：搬入474点（274人）・入選100点（100人）、立体：搬入51点（45人）・入選18点（18人）

【大　賞】立体　「SANAGI—予兆」　剱持　啓子

略歴　1949—京都市生まれ
1969—大分県立芸術短期大学美術科絵画専攻 卒業

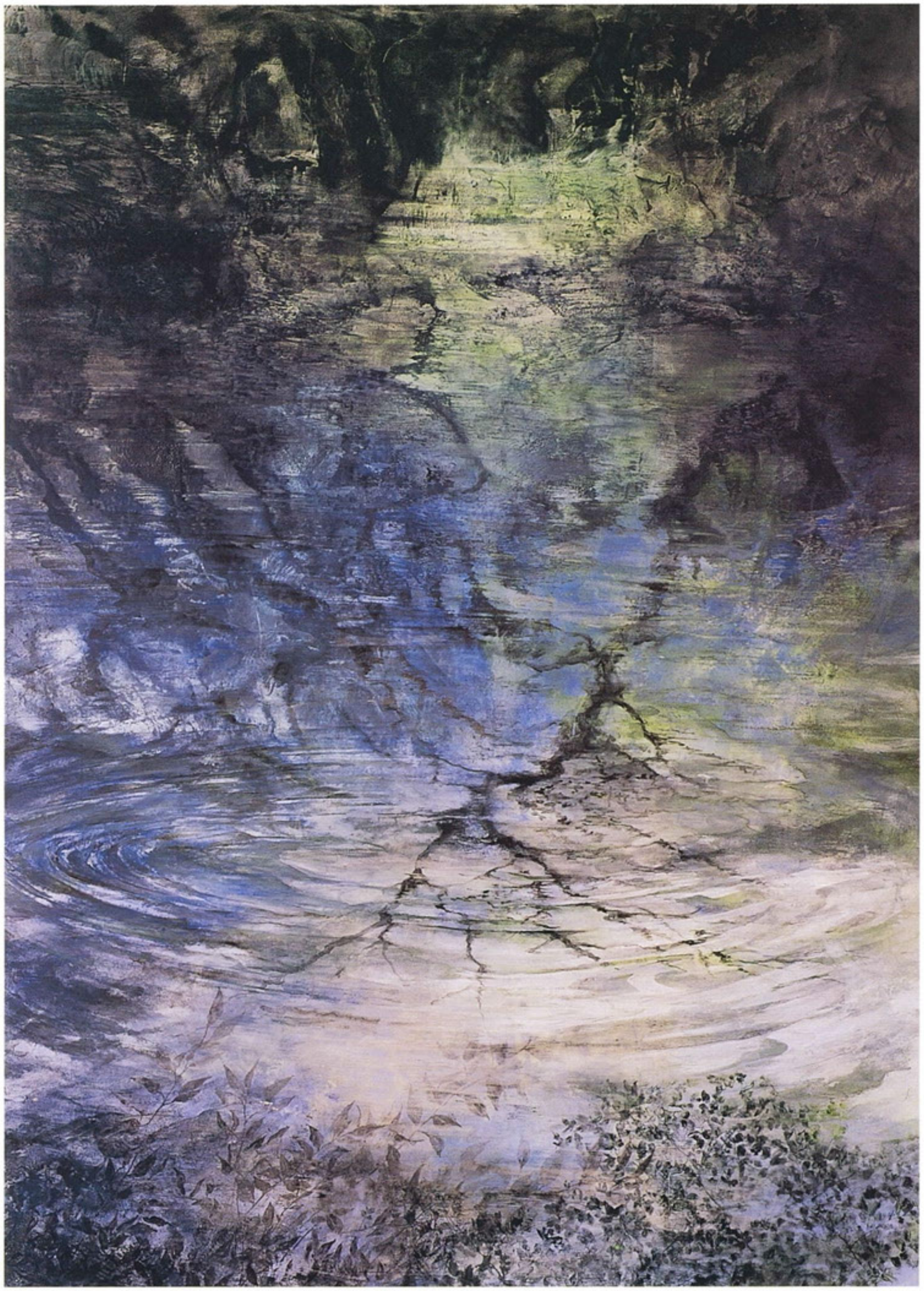
個展　1996.6—ギャラリースペース21（東京）
1997.9—ギャラリースペース21（東京）<予定>

グループ展　1989—国際テキスタイルコンペティション京都（京都市美術館）
1991—朝日現代クラフト展（阪急百貨店 大阪／東京）
1992—新・現代造形展（大阪市立美術館）
1995—国際丹南アートフェスティバル '95（福井県武生）
1996—国際丹南アートフェスティバル '96（福井県武生）
第32回神奈川県美術展（神奈川県民ホール）<特選>
1997—第26回現代日本美術展（東京都美術館）
第33回神奈川県美術展（神奈川県民ホール）<大賞>

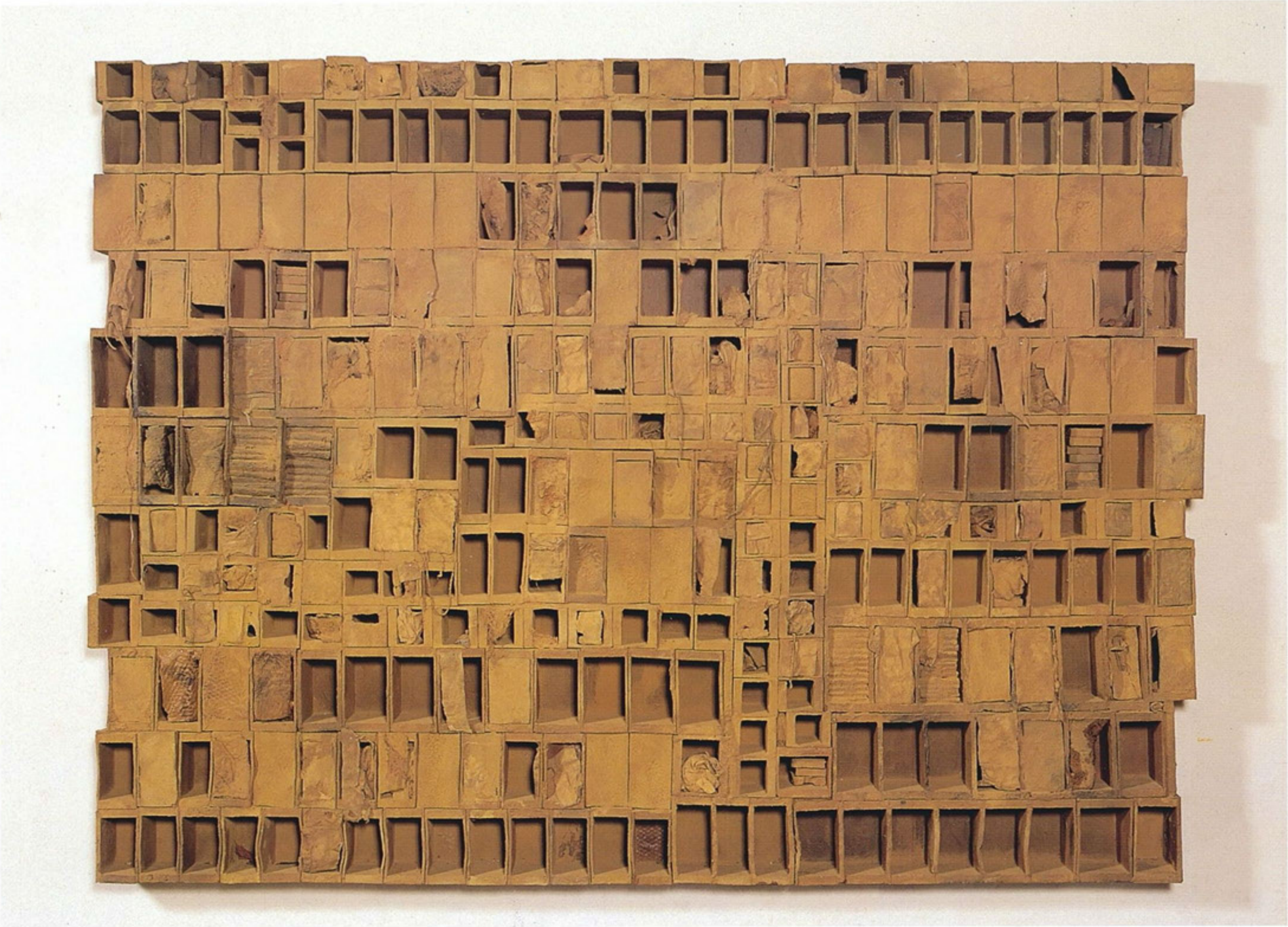
【準大賞】平面　「時間・移行—9707—H」　瀬尾　きみ子

【準大賞】立体　「時の背景」　相沢　久徳

【特　選】平面　「桃老島」　高橋　さやか

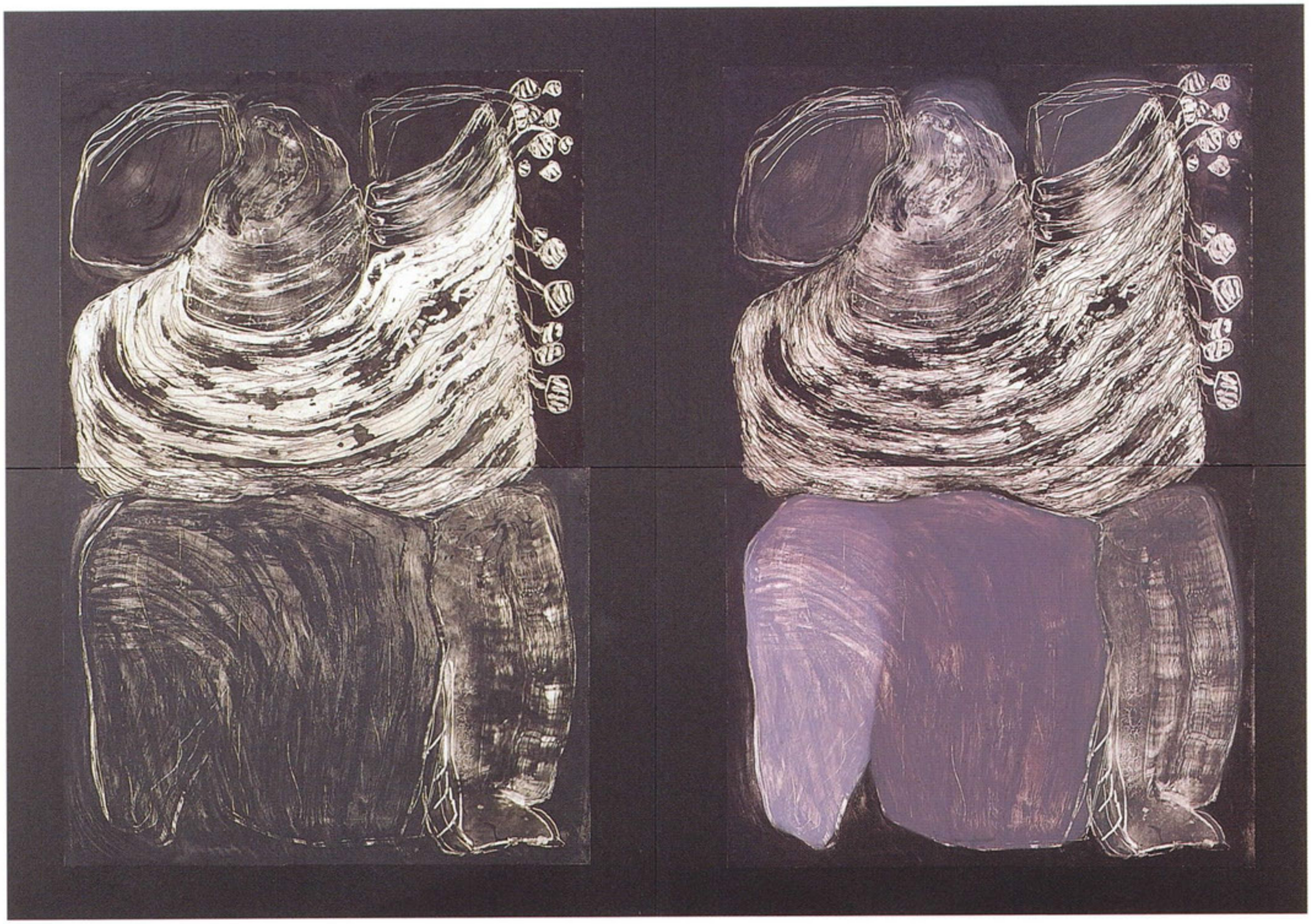


【特　選】平面　「みずのかげ」　小松　謙一

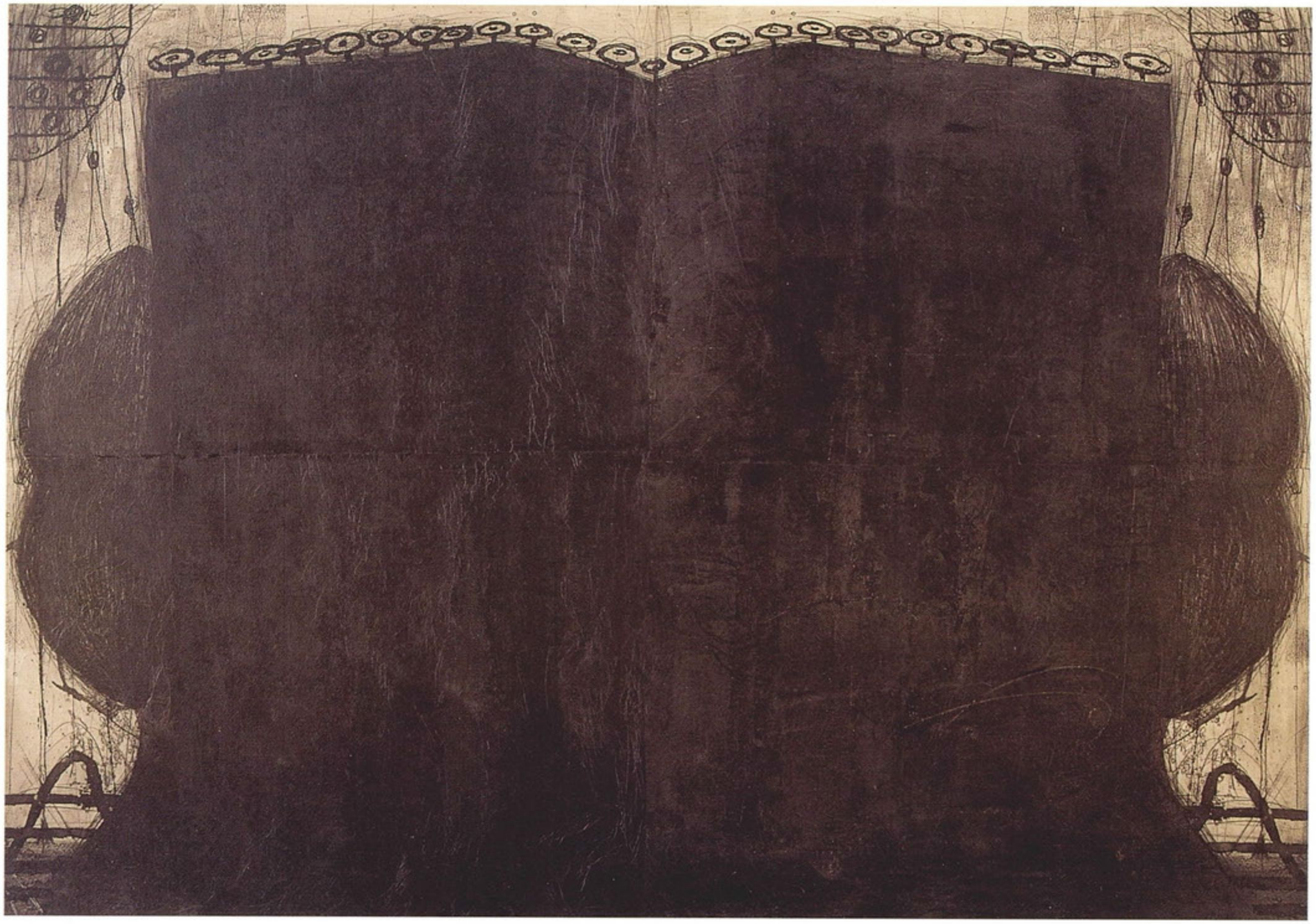


【特　選】立体　「砂が人間に目ざめさせる対抗的力動性の心象、または世界の終わり」　久世　和寿

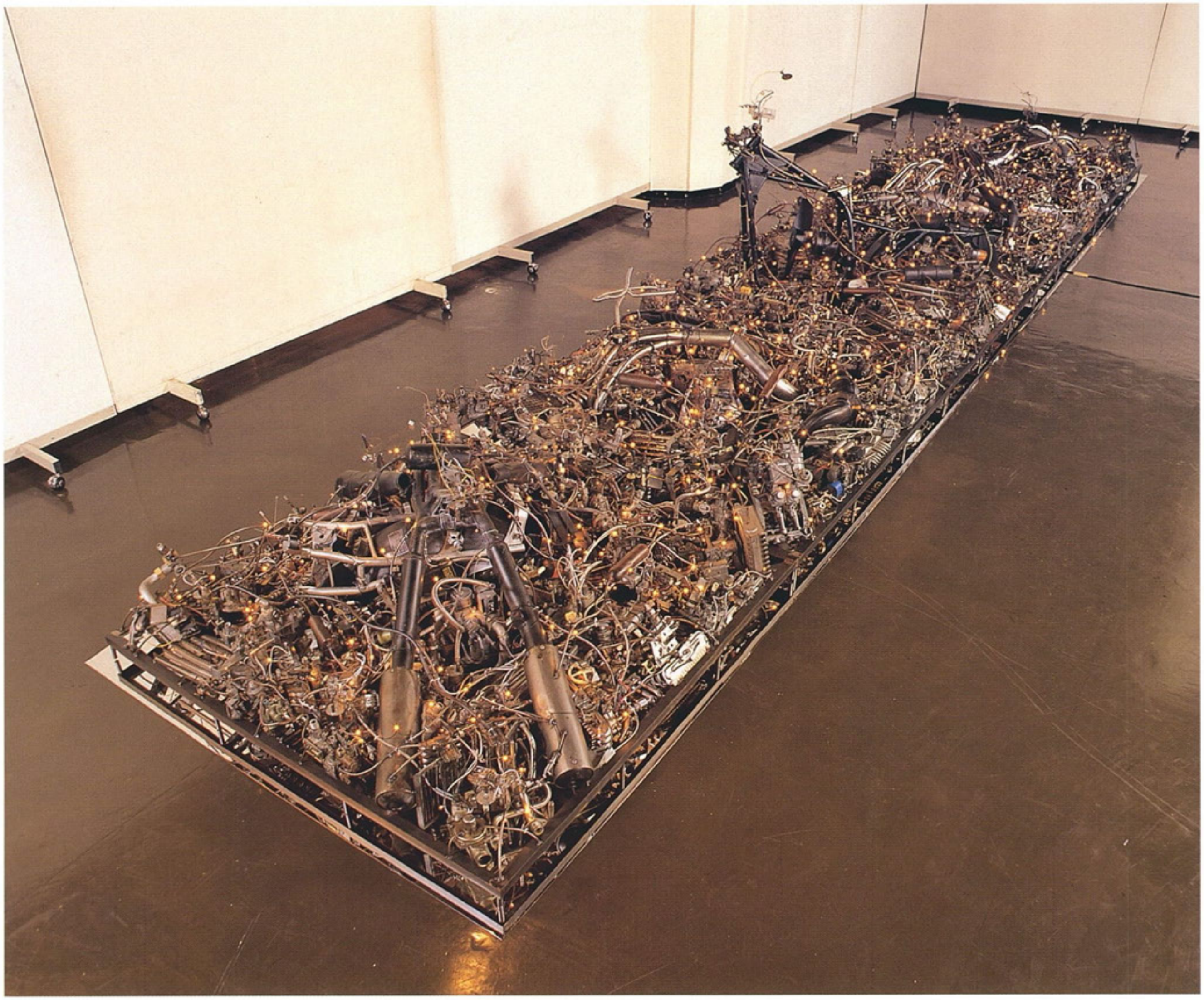
【特　選】立体　「あふれ出た水」　高梨　裕理



【県立近代美術館賞】平面　「紫　亀」　藤井　清子



【美術奨学会賞】平面　「白華の宿」　大矢　雅章



【はまぎん財団賞】立体　「REBIRTH FIELD」　たべ・けんぞう

大賞受賞者

回	年度	受賞者	作品	部門
第１回	昭和40年度	大森　運夫	『九十九里』	日本画
第２回	41年度	廣瀬　義男	『作品Ｉ』	洋画
第３回	42年度	垣内　治雄	『坐る』	彫刻
第４回	43年度	川村　直子	『'69-A・'69-B』	洋画
第５回	44年度	山井イク夫	『Laby 70-1・2』	立体造形
第６回	45年度	伊藤　彬	『天涯巡礼』	日本画
		大久保利圀	『Straw』	工芸
		西川　万象	『廬子諒詩』	書
		加賀谷武男	『にっぽんNONSENSE ZONE』	写真
第７回	46年度	中西新太郎	『落日』	洋画
		島津　碧嵓	『寒山詩』	書
		大谷　正夫	『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』	写真
第８回	47年度	佐々木英夫	『人間の風景1・2』	版画
		林　良達	『騎士』	工芸
第９回	48年度	河原　明	『蜻蛉』	彫刻
		石川　充宏	『Girl in chair』	工芸
第10回	49年度	大山　鎮	『語り』	日本画
第11回	50年度	鎌田　恵子	『Lost my way』	工芸
第12回	51年度	泉谷　淑夫	『愁傷のモニュメント』	洋画
第13回	52年度	井上　麦	『黒の女-'77』	彫刻
第14回	53年度	坂田　一之	『MIRROR』	立体造形
第15回	54年度	前本　利彦	『暗い部屋Ｉ・II』	日本画
		川口　流坡	『菅原道真詩』	書
第16回	55年度	和久井Who	『HANGING』	立体造形
		市原　欣一	『ふるさと』	写真
第17回	56年度	坂井　彰夫	『SEISHO』	彫刻
		高木　参平	『BODY』	工芸
第18回	57年度	小泉　正彦	『冬の木』	洋画
		井上　隆敏	『イグナドバ選手』	写真
第19回	58年度	井上　麦	『土の系譜』	彫刻
		茶木　静谷	『竹聾松影』	書
第20回	59年度	東谷　武実	『日蝕F』	版画
		西　雅秋	『CASTING VIEWPOINT』	野外彫刻
		林　亘	『クリスタル大鉢“洞”』	工芸
第21回	60年度	鶴見　厚子	『夢の質感』	洋画
		石渡　四郎	『硫黄島の再会』	写真
第22回	61年度	会田富二男	『駆けゆく母子像』	彫刻
		浜本　艸舟	『良寛詩』	書
第23回	62年度	高橋　洋子	『WAVE(BLUE FENCE)』	立体造形
		森山　可余	『俳句（原石鼎）』	書
第24回	63年度	三枝　孝司	『複製された場所』	版画
		管間ゆみい	『夢印象』	工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ	『アンタニアワカルメ』	彫刻
		片岡　順一	『大気現象』	写真
第26回	2年度	山本　靖久	『時の化石ー豊沃のかたち』	洋画
		高橋あづま	『遙かなる亜熱帯』	工芸
第27回	3年度	荒井　正美	『蟻の迷走』	彫刻
		相沢　順一	『樹界』	写真
第28回	4年度	たべけんぞう	『MAGNETIC FIELD 92-2』	立体造形
		中森　万象	『郎士元詩』	書
第29回	5年度	王　青	『チベットの娘』	日本画
		平野　朱美	『電解ザウルス』	工芸
第30回	6年度	辻　忍	『野辺』	彫刻・立体造形
		八木　香葉	『笹澤美明詩　菊』	書
第31回	7年度	R　津田	『封印ー過去と未来ー』	彫刻・立体造形
		中田　文	『阿弥陀堂釜』	工芸
第32回	8年度	結城　勉	『個々の領域ー群像II』	平面・立体
		今井今日子	『Twilightー黄昏ー』	工芸
		中西　雅舟	『百人一首より』	書
		中谷　晴男	『山の民（ネパール）』	写真
第33回	9年度	剱持　啓子	『SANAGI—予兆』	平面・立体
		村田　則子	『レクイエム』	工芸
		島田　幸舟	『白鳥』	書
		渡部　満	『1.8 朝』	写真

セルテから新しい Good for you.

おトクなポイントカード

セルテ倶楽部

ただいま、会員募集中！

セルテをもっとエンジョイして欲しいから、おトクなポイントカード「セルテ倶楽部」誕生。
最新のファッションやお気に入りのグッズから、多彩な美味しさ揃ったカフェ＆レストランまで、
使えば使うほど、うれしさステップアップ。各種イベントのご招待など、うれしい特典もいっぱいです。
もちろん入会金、年会費は無料。さらに楽しい、さらにおトクなセルテをどうぞ。

Good for you
CERTE

横浜市中区真砂町3-33(JR・地下鉄関内駅前) TEL045-651-1431(代)

7つの魅力を身にまとう。
タカシマヤカード

入会金・年会費すべて無料!

お申し込み受付中。

●お申し込み・お問い合せは、
横浜店6階・玉川店5階・港南台店4階クレジットカウンターまで

トクするカードで、トクする暮らしはじめましょう。

★特典 1 タカシマヤカードでのお買物で、ポイントを集めると「お買物券」をプレゼント。
お買上げ額100円ごとに7ポイントを進呈。獲得ポイントが2,000ポイントになった時点で、2,000円のお買物券と交換できます。ポイント積立期間は1年間です。

★特典 2 バーゲン品やボーナス払いでも100円ごとに3ポイントを進呈。

★特典 3 国内外のJCB、VISA、Masterの加盟店でもご利用いただけます。
JCB、VISA、Masterの年会費も無料になります。
またご利用額200円ごとに1ポイントを進呈。
このほか、特別ご優待企画、便利なキャッシングサービスなど、おトクな特典がいろいろです。

※ポイントの積立期間は、入会月を基準に1年間です。翌期へのポイントの繰り越しはできません。
詳しくは、髙島屋各店のクレジットコーナーまたは「入会のご案内」をご覧ください。

Takashimaya・YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111

秋のワルツが聴こえます。
ときめき・ライブタウン
YOKOHAMA
PORTA
ホームページアドレス http://gnavi.joy.or.jp/porta/

たくさんの"感動"を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY "INSPIRATION"
The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績
Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展 ● VENUS DE MILO
ツタンカーメン展 ● TUTANKHAMEN
レンブラント名作展 ● EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展 ● EXPO'70 ART EXH.
ゴヤ展 ● GOYA EXH.
モナ・リザ展 ● MONA LISA EXH.
東大寺展 ● EXH.OF TODAIJI TEMPLE
江戸大美術展 ● THE GREAT JAPAN EXH.
将軍の時代展 ● THE SHOGUN AGE EXH.
インド古代彫刻展 ● ANCIENT SCULPTURES OF INDIA
比叡山と天台の美術展 ● THE ART OF TENDAIJI BUDDHISM
ロダン展 ● AUGUSTE RODIN EXH.
黄河文明展 ● EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER
薬師寺展 ● EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE
日タイ修好100周年展 ● EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND
世界現代ガラス展 ● WORLD GLASS NOW EXH.
神々のかたち―仮面と神像 ● THE SHAPES OF GODS―MASKS & IMAGES OF GODS
シーボルトと日本 ● VON SIEBOLD AND JAPAN
大エジプト展 ● THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT
17世紀オランダ絵画展 ● HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH
柿右衛門展 ● KAKIEMON STYLE WARE EXH.
スミソニアン―アメリカの大発明展 ● SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY
鎌倉彫刻展 ● UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)
ミレー展 ● MILLET EXH.
大英博物館展 ● THE BRITISH MUSEUM EXH.
中国兵馬俑展 ● CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.
トプカプ宮殿秘蔵展 ● THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION : OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE
日本国宝展 ● NATIONAL TREASURES OF JAPAN
ローマの支倉常長展 ● HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME
ユーロパリア展 ● EUROPALIA EXH.
ヴァチカン展 ● MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN
三井寺秘宝展 ● ART TREASURES OF MII-DERA TEMPLE

「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海　陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保　　管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。

IATA

日本通運 横浜北支店 ☎045-521-2222

プロのために、プロの品揃えです。

有隣堂

画材／書道用品／製図・デザイン用品コーナー

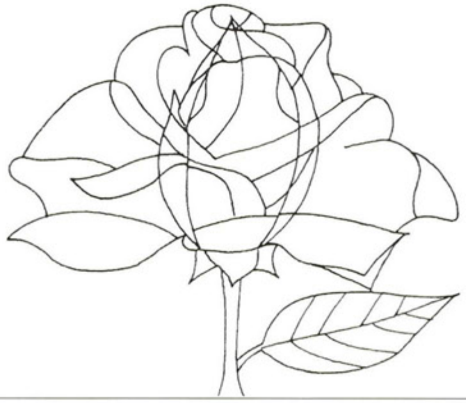
■本店〈文具館〉4F・5F/横浜・イセザキ町　TEL.(045)261-1231
■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル2F　TEL.(0466)26-1411
■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F　TEL.(045)453-0811
■厚木店 小田急線・本厚木駅前　TEL.(0462)23-4111
※ルミネ店・藤沢店は書道用品・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー イセザキ町・本店書籍館B1

《個展・グループ展》申込承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝室ギャラリー係 ☎(045)825-5507

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

事務局(申込先)〒231 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111 内線3428

中小企業庁指定合理化モデル工場

時代のこころを奏でます。

私たちは
さまざまな表現を駆使して
情報に命を吹き込む
コミュニケーションの
トータルクリエーター
マックDTPやウィンドウズのデータから
SGML　CD-ROM
インターネット ホームページ作成など
情報をフルサポートします

野毛印刷は、情報化時代の多彩なニーズにお応えします。

- ●マッキントッシュからハイエンドへ、文字・画像データの統合処理システム完成。お客様が制作した文字データ、レイアウトデータからダイレクトに印刷物が作成されます。
- ●データベースの構築、顧客管理＆名簿作成など、コンピュータを駆使してつくるものならどんなものでも、コンピュータに強い当社におまかせください。
- ●効果的なＤＭ展開が可能なシークレットメール。リーフレットを折りたたんだ封筒兼用タイプ、１枚で２枚分の情報を盛り込めるハガキタイプなど、ご相談に応じます。
- ●ポスター、カタログ、チラシ、パンフレット、リーフレット、マニュアル、営業案内、会社案内、定期刊行物、ＰＲ誌、カレンダー、テレホンカード、包装紙、ショッピングバッグ（紙 or ポリ）、図録、写真集、自分史、社史、記念誌、その他、印刷に関わるものなら何でも、どんなことでも、お気軽にご相談ください。

通産大臣賞　中小企業庁長官賞等多数受賞

野毛印刷

営業本部・工場／横浜市南区新川町1-2　〒232　(045)252-2511㈹
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17　〒106　(03)5401-1231㈹

営業企画本部
(045)252-2511

印刷ショップ 株式会社アトラス
中区相生町5丁目 馬車道 (045)641-4132

企画・デザイン 株式会社エイ・シー・ビー
中区弁天通4丁目 (045)201-8263

第32回神奈川県美術展　関係者名簿

顧問

小倉　遊亀
近藤　弘明
國領　經郎
斎藤　義重
井上　信道
圓鍔　勝三
蓮田脩吾郎
殿村　藍田
比田井南谷
菅原　寿雄
弦田平八郎
中原　佑介
吉田　耕三

神奈川県美術展委員会

委員長　上野　豊
委員　井上　玲子
江成　常夫
神戸　由雄
酒井　忠康
勝呂　忠
竹田　悦堂
永井鐵太郎
長谷部満彦
浜口タカシ
針生　一郎
平松　礼二
柳生不二雄
吉田　蘭処
渡辺　豊重
伊佐　浩一
蔵　隆司

審査員

平面・立体

井上　玲子
酒井　忠康
勝呂　忠
建畠　哲
針生　一郎
平松　礼二
藤嶋　俊會
眞板　雅文
渡辺　豊重

工芸

赤堀　郁彦
鯉江　良二
田中　輝和
辻村ジュサブロー
広川　青五
長谷部満彦
柳生不二雄

書

久保田昭子
竹田　悦堂
渓口　幽城
茶木　静谷
殿村　藍田
丹羽　蒼処
船本　芳雲

写真

天野　太郎
江成　常夫
河崎　英男
常盤刀洋子
長野　重一
浜口　タカシ
松本　徳彦

実行委員

書

岩澤　蕙堂
川口　流波
川瀬　魚石
島津　碧崗
菅野　尭処
高木　幸子

写真

阿部タモツ
片岡　順一
小西　昭夫
鈴木　健夫
三井　文一

第33回神奈川県美術展
発行●財団法人神奈川芸術文化財団
©1997
神奈川県民ホールギャラリー
〒231横浜市中区山下町3-1
TEL.045-662-5901
表紙デザイン●平松礼二
撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦
本文デザイン・制作●株式会社 野毛印刷社
発行●1997年9月1日

神奈川県民ホール［財団法人 神奈川芸術文化財団］・神奈川県・神奈川県美術展委員会